

## 施術情報登録システムへの要件

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 患者自動問診システム             <ul style="list-style-type: none"> <li>- VAS 自覚症状の経過を追跡</li> </ul> </li> <li>• 生活指標             <ul style="list-style-type: none"> <li>- EQ5D、SF36 V2</li> </ul> </li> <li>• 来院動機は運動器系愁訴の頻度が高い             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 膝関節痛、腰背部痛、頸部痛、五十肩など</li> </ul> </li> <li>• 運動器系疾患への対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本整形外科学会JOAスコア</li> <li>- 膝OA WOMACスコア</li> </ul> </li> <li>• WHOの国際標準経穴コード</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 施術手技の詳細             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 経穴の微調整                 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 変位 解剖構造</li> </ul> </li> <li>- 治療手技                 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 補助手技</li> </ul> </li> <li>- 関連現象</li> </ul> </li> <li>• 証             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 証 弁証</li> <li>- 診断 考察</li> </ul> </li> <li>• 個人開業により多忙             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 入力時間が限られ簡潔なシステムが求められる</li> <li>- 定型治療フォーム登録 Do 機能など</li> </ul> </li> </ul> |
|---|--|

図 5-2 施術情報登録システムへの要件

## 日本の鍼灸の特徴

- 古典派 脈診法 弁証
- 科学派 自律神経 解剖学 血液循環 免疫系
- 実践派 沢田流 長野式 積聚他 背腹部診+四肢要穴診
- 局所治療 反応点への治療

日本の鍼灸は主に触診により経穴反応点を探り、取穴する弱刺激で高い治療効果を引き出す実践を重視する

画一的な思想体系に依らず、経験値によって治療法が決定される

症状・所見 ? 経験値・証 ? 治療

漢方薬と同様に医療情報として処理しやすい

図 5-3 日本の鍼灸の特徴

## WHOの国際標準経穴と実際の取穴部位

肺経 尺澤 孔最の例

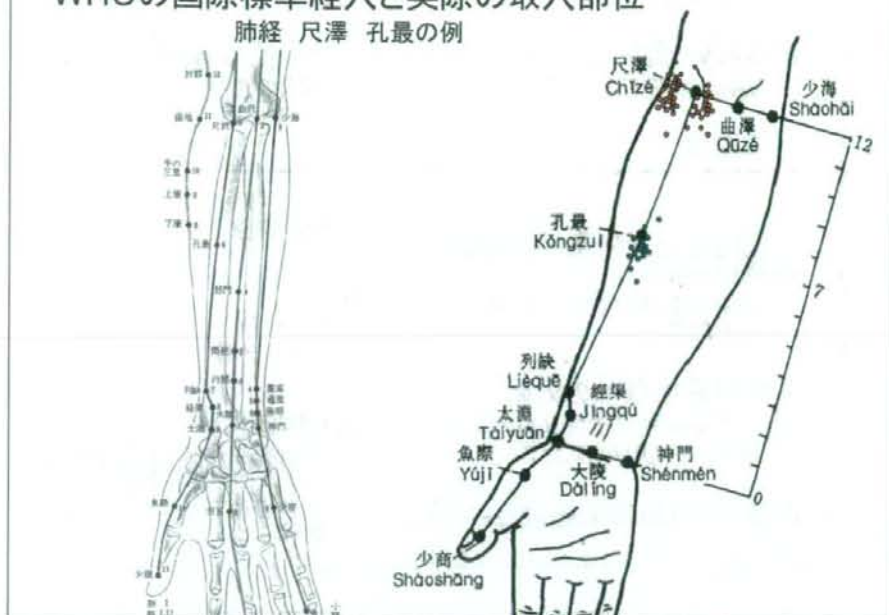


図 5-4 WHOの国際標準経穴と実際の取穴部位

## 鍼灸の治療部位 経穴の国際標準化

WHO西太平洋事務局(WPRO)による

経穴部位の国際的な標準化作業

第2次 日本経穴委員会 委員長形井秀一

WHO 経穴コード 361穴

日中韓で位置の異なる経穴に関して協議され

2006年に日中韓の合意形成

図譜の作成作業

等尺的に経穴を決定

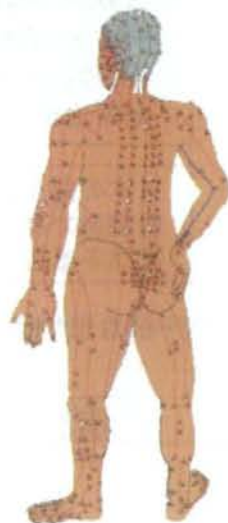


図 5-5 鍼灸の治療部位 経穴の国際標準化





東アジア伝統医学の用語集の日本語翻訳に関する研究

研究担当者 石野 尚吾

日本東洋医学会 会長

研究要旨

2007年8月、WHO西太平洋地区事務局では日本、中国、韓国が中心となって東アジア伝統医学の用語集を作成し出版した。用語説明文が英文となっているため、日本人に理解されやすいよう、日本語訳を作成し、利便性を高めるため和訳の索引を添付した。これにより、用語集のさらなる修正がなされ、より完成した用語集になることが期待される。

A. 研究目的

患者自動問診システムを運用する際、漢方医学用語の理解を避けては通れない。この場合、様々な東洋医学用語集が出版されているが、その定義は一定しておらず、これまでも混乱を招いてきた。WHOが中心となり、作成された東アジア伝統医学用語集を用いるのが妥当と判断した。このような漢方用語の理解を容易にするうえで日本語訳があることは、重要である。

B. 研究方法

このWHOで作成された東アジア伝統医学用語集において、用語の説明は英語でなされている。この用語説明の部分日本語に翻訳し、日本語による索引を作成する。

C. 研究結果

WHOで作成された東アジア伝統医学用語集において、英語で説明されている用語の部分日本語に翻訳し、日本語による索引を作成した。

D. 考察

東アジア伝統医学で用いている用語は、日本、

中国、韓国で、同じ文字で表現されても、その内容が異なることがある。これらを統一することは大変な労力であり、これらが統一された用語集が作成されたことは大変意義深い。用語解説が英語でなされているため、用語理解においては、日本語に翻訳することは、この用語集を広く普及させるうえで、非常に重要になってくると考えた。この翻訳が利用され、漢方医学がさらに発展していくことが期待される。

E. 結論

用語の統一は今後、さらに必要になるが、この翻訳が土台となって、より鮮明な使いやすい用語集として発展していくことが望まれる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
塚田信吾	統合医療と鍼	Modern Physician	28	1644-1647	2008
美馬秀樹	オントロジーを用いた 建築関連法令の検索と 俯瞰に関する研究	第 31 回情報・システ ム・利用・技術シンポ ジウム論文集		79-84	2008
美馬秀樹	「知識の見える化、触 れる化、構造化」－ 知識からの価値創出、 再活用化	第13回ビュジュアリゼ ーションカンファレン ス		1-3	2008